

市では、市内の学校に通う児童・生徒に小諸のことをより知ってもらうため、副読本として「こもろヒストリー」を作製しました。ここでは、その一部を連載してお伝えしていきます。

HISTORY No.9

戦争へ —— 第二次世界大戦 ——



木炭で走るバス

戦争が激しくなると、国内で使うガソリンが足りなくなりました。

ガソリンに代わって、木炭をたいて車を走らせるようになり、バスも木炭をたくための装置をつけて走りました。

石炭も不足して、小海線の機関車も木炭をたいて走りました。火力が弱く、坂になるとバックして、勢いをつけてから登りきるような時もあったそうです。



大都市で空襲が激しくなると、身内をたよって、小諸に疎開してくる人が増えました。

学校ぐるみで、お寺などに「学童集団疎開」をしてくることもありました。

左の写真は、成就寺にある「学童集団疎開の碑」です。

1944年8月から翌年11月まで、東京都杉並区立大宮国民学校3年生、6年生の53名が疎開されたことが記されています。



戦時中に掘られた横穴
(平原十石)

燃料が入ったドラム缶や服などを貯蔵しておくために、軍事用の横穴が掘られました。



満州開拓団を送って、満州に「小諸町」を作るための本部が、小諸に作られました。

小諸には空襲はありませんでしたが、空襲へのそなえをしました。防空壕を掘ったり、火を消すための消火弾を用意したりしました。(写真：消火弾)



小諸学
KOMORO GAKU

超大作

全12回

私が住むまち

小諸の歴史

K O M O R O
H I S T O R Y
歴史の なかに、 未来の ひみつが 横た わっている

こもろ未来プロジェクトシリーズ